HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	編集後記
Author(s)	張, 揚
Citation	北海道大学教職課程年報, 16, 111-111
Issue Date	2026-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99344
Type	editorial
File Information	07_2185-9809_16_6.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

編集後記

本年度後期より教職課程委員会の委員となり、『教職課程年報』第 16 号の編集業務を担当することとなった。本号の投稿募集は 2025 年 5 月 13 日に edunet を通じて部局関係者に向けて行われ、締切までに 3 件のエントリーがあった。最終的には調査報告 1 本、実践報告 1 本の計 2 本の原稿が寄せられ、本号に掲載することとなった。ご多忙のなか原稿をご執筆いただいた執筆者の方々に、この場を借りて御礼申し上げたい。

筆者は 2016 年度から 2019 年度まで教職課程を担当していたが、今回久しぶりに教職課程委員として教育実習事前指導および教職実践演習に関わる機会を得た。その過程において、学部（教科）ごとに教科教育の実施方法に多様性が見られること、また履修学生の教職に対する認識や学習態度にも一定の差異が存在することを改めて認識した。また、点検・評価小委員会および教職課程担当教員会議に参加し、教職科目ごとの履修者アンケートの結果や担当教員の意見を踏まえるなかで、現在の教職課程におけるいくつかの課題が明らかになった。

第一に、学生の学習意欲の二極化である。授業に積極的に参加し主体的に学ぶ学生が一定数存在する一方で、出席のみで単位取得を目指す学生や授業への関与が低い学生も見られることが指摘されている。特にグループワークや模擬授業において他者の発表を十分に観察しない学生の存在が報告されており、学生間の学習意欲の差が授業運営に影響を及ぼしている可能性がある。

第二に、授業評価アンケートの回収率の低さである。科目によっては回答率が低く、授業改善のための十分なデータが得られない場合がある。また、回答者が授業に積極的な学生に偏る可能性も指摘されており、評価結果が授業の実態を十分に反映していない可能性がある。

第三に、授業内容における理論と実践のバランスの問題である。アンケート結果から、学生は教育理念や教師の姿勢などを学ぶことに一定の満足を示している一方で、授業づくりの方法や指導案作成など、より実践的な技能を学びたいという要望も見られた。教職課程では、教育に関する理論的理解とともに、授業実践に結びつく技能の習得を支援することが重要である。

第四に、模擬授業やグループワークの運営方法に関する課題である。模擬授業において他者の授業を十分に観察しない学生の存在やグループワークの成果が平均化する傾向があることが指摘されている。学生同士の相互評価やコメントシートの活用など、相互学習を促進する仕組みの整備が求められる。

第五に、教職課程の履修制度および学修支援の課題である。学生からは専門科目との時間割の重複や履修負担に関する意見が寄せられているほか、教員採用試験に向けた支援体制の充実を求める声も見られる。教職課程の円滑な履修を実現するためには、カリキュラム編成の工夫とともに、教職志望学生に対する継続的な支援体制の整備が重要である。

以上のように、教職課程においては、学生の学習意欲の差への対応、授業評価制度の改善、理論と実践のバランスの確保、授業方法の改善、履修制度の整備など、複数の課題が確認された。本年報が、これらの課題を共有し、教職課程の質保証および教育内容のさらなる充実に向けた議論を促進する一助となることを期待したい。

2025 年度教育学部教職課程委員会

文責　張　揚